

ちやんとした夕暮れ

南出謙吾

・登場人物

高橋（タカハシ） 21歳

大西（オオニシ） 40歳

・本編

料亭とはお世辞にも呼べない、ちょっとした日本料理レストランの個室。

テーブルを挟んでスーツ姿の男（大西）と、女子高生風の女（高橋）が座り、盛り上げて話をしている。

大西 卵を買いにいったんだ。

高橋 たまご？

大西 そ、卵。

高橋 それで。

大西 そのまま。

高橋 ええ！？

大西 注文は？食後のデザート。

高橋 それより、卵買いに行つてそのままどらなかつたんですか。

大西 おかしいよな。普通女の人だよそういうことすの。聞いたことあるもん。サラダ油を買いに行くつて出て行つたまま、戻つてこなくなつた奥さんの話とか読んだことある。

高橋 …へえ知らなかつた。奥さんがいたなんて。

大西 あれ。言つてなかつたつけ。

高橋 聞いてません。

大西 ちよつとまつて。なんだか騙してたみたいじゃない。何年も前だよ。別れたの。

高橋 未練は。

大西 未練。

高橋 あるんだ。

大西 ないよ。

高橋 いま、未練つていう前に0.3秒の間があつた。

大西 ん？

高橋 あるつてことなんです。それは。

大西 ちがうつて。ほら、俺の年にもなるとき、遅いんだよ。伝達の速度が。聞いた声が

脳に届くのも、脳から口に話せつていう指令も。

高橋 え！そうなんですか。

大西 そんな驚かれると自信ないけど。たぶん。

高橋 それなら、はい。

大西 もうそんなこと心配しなくていいのに。

高橋 どうして別れたんですか。

大西 忘れた。

高橋 嘘。

大西 ほんと。いろいろあったんだよ、きつと。
高橋 信じていいんですか。未練は無いつて。

大西 もちろん。なに、もしあったらちよつと嫉妬する。

高橋 はい。

大西 もうかわいいな。梓ちゃん。

高橋 やめてくださいよ。

大西 ないよ。未練だなんて。梓ちゃんだから。ほんと安心していいんだよ。

高橋は、携帯で時間を確認する。

大西 どうしたの。

高橋 あっそろそろ。

大西 え、もう。(大西も時間を確認して)

高橋 ありがとうございます。楽しかったです。

大西 あの：・もうちよつとだけ。駄目かな。

高橋 勉強もしないといけないし。

大西 そうかあ。

高橋 もうちよつとだけなら。

大西 あの、ちゃんと出すから。ちよつとまって。(鞆から財布を探す)

高橋 いいです後でも。信用していますから。

大西 あ、そう。

大西は、カバンをもったまま、何か考えている。

高橋 どうしたんですか。

大西 (思い切つて) あの、プレゼントがあるんだ。ほら、誕生日でしょ。来週。

高橋 ああ、はい。

大西 誰と？一緒に。誕生日。

高橋 え？

大西 いやごめん。なにも。

高橋 独りですよ。独りっていうか、家族と。

大西 あそうかそうだな。

高橋 なんですか。

大西 あの。いや、色々考えたんだよ。指輪とかって、ちよつとイミ深すぎるし、ピアスは、まだ、穴あれでしょ。だからネックレスかなとか、i padかなとか。

高橋 i padですか！

大西 i padがよかった？

高橋 ・・・いえ。なんですか？

大西 色々考えて、考えすぎて、一番いけない選択をしてしまうことってあるじゃん。

高橋 気にしないでくださいよ。何でもうれいですよ。

大西 ほんとに。

高橋 はい。

大西 …じゃ。どうぞ。これ。

大西は、「中年が考えるかわいい包装」に包まれた箱を差し出す。

高橋 ありがとうございます！開けていいですか。

大西 今ここで？あの、いいよ。

高橋が包みを開けると、透明な小さな瓶が出てくる。

瓶の中には、茶色いどろどろした得体の知れない液体。

高橋 ……なんですか。これ。

大西 結局チョコレート。

高橋 これチョコレートなんですか！？

大西 うん。

高橋 あの、誕生日なんで、バレンタインと違いますけど。

大西 あ。

高橋 もう。なんか、大西さんらしい。

大西 作ったんだ。

高橋 作ったんですか！？

大西 なに。おかしい。よくない。

高橋 いえ。ありがとうございます。

大西 ごめんな、色々混ぜたら上手く固まらなくて。

高橋 ……うれしいです。

大西 うそ、そんな、奇妙なやつ。

高橋 そんなの関係ないですよ！気持ちですから。

大西 気持ち。

高橋 はい。私のために一生懸命作ってくださいました気持ちがいいです。

大西 梓ちゃん…あのさ。

大西、突然高橋の前に立ち。

高橋 なんですか。

大西 俺こんなんだけどさ。実は。ちゃんと、好きなんだ。ほんとは。ほんとに。

高橋 ……知ってますよ。

大西 そうじゃなくて。ほんとに。ちゃんとしたって。

高橋 ちゃんとしたい。

大西 きちんと、したい。

高橋 はい？

大西 ちがうちがう。したいってあれだよ。やらしいのじゃなくて。これだけ年はなれて、こんな関係で、あれだけど。好きなんだ。だから。こういうのじゃなく。ちゃんと。

高橋 ……私ですよ。

大西 え。

高橋 ちゃんとしたいです。好きですから。

大西 ほんとに！？（猛烈にうれしく、涙が出そうになる）……ありがとう。

高橋 人として……好きです。

大西 ……ありがと。

高橋 男の人としてではなく。

大西 ……え。

高橋 女の子としてですよ。好きっていうの。私のこと。

大西 あ、うん。

高橋 人としてではなく。

大西 は？

高橋 逆ですね。好きになり方が。

大西 ちがうよ。

高橋 ちがわないです。こういう女の子を、人としては好きにはならないですよ普通。

大西 違う。人としても、好きだよ。

高橋 嘘。いま0・3秒の。

大西 嘘じゃない！

高橋 ……ほんとどうもありがとうございます。

大西 だからちゃんときあいたい。年齢差すごいあるのわかってるし、奇妙に見えるかもしれない。ちよつとおじさん臭い発言とか臭いとか行動とか臭いとか、多少我慢させてしまうかもしれない。僕も抑えるよう努力する。ばついちだし、もう四十だし、中途採用だし、腰も常に痛いし寒いと冷えるし、色々人間的に下り坂だけど、その分凄く大切にす。自信がある。梓ちゃんのために、何かすることを僕が、凄くうれしく感じるっていう確信があるんだ。だから、こんなじゃなく、ちゃんとした……と、僕は思ってる。もちろん梓ちゃんもそれを望んでくれるなら、の話なんだけど。

高橋 関係ないじゃないですか。私が望む望まないと大西さんがどう思うかは。

大西 うん。僕は、思ってる。そう。

高橋 だったら……ちゃんと教えてくさい。

大西 ン。

高橋 どうして、家を出たんですか。

大西 どうしてって。

高橋 それを知らないと先に進めません。ちゃんとしたいの、できないです。

大西 あのえつと。えつとね。

高橋 嘘はつかないでくださいね。

大西 もちろん。……すごくいい時期だったんだ。仕事も順調で。もともと彼女のアパートに転がり込んで始めた暮らしたたから、そろそろ家でも買おうかって話になって。そのときにさ。思ったんだ。あ、俺今人生で最高の瞬間だって。

高橋 なんですかそれ。

大西 体も丈夫で、頭も冴えてて、何をしてもうまくいく自信があつて、失敗する気がしない。愛する妻もいて。彼女もすごく幸せそうで。そのとき、今が、俺という人間の人間としての最大値だつて確信したんだ。ほらボールを投げたときの、放物線の山型の一番高いところ。今までの俺の集大成だよ。それが今だつて。・・・そう思ったら、仕事の帰り電車の中。急に涙があふれてきたんだ。ぼろぼろぼろぼろ。

高橋 どうして。

大西 わけがわからない。とにかく寂しかった記憶がある。家に帰ると、妻がおかえりつて。ここにこしてるんだ。無邪気に家のパンフレットを見せにきて。あれがいいだのこれは譲れないだの。あんまり平和でほつとしてさ。なんだかおかしくなつて。さつきのはなんだつたんだらうつて。・・・でも次の日の帰り道、また同じ寂しさが襲つてきた。それが毎日続いて。最初は仕事のせいだと思つた。今の俺ならもつとすごいことできるかもしれないのにつて。よし転職しようつて思つた。でもいい出せなくて。

高橋 言えばいいじゃないですか。

大西 なんの根拠もないもん。うまくいく保障なんて全くないし、失敗したら、家も買えない。でもそうすると今度は、妻のせいにするんだ。わけのわからない寂しさの原因を。

高橋 ふうん。

大西 そのまま、ある日ふと、ほんとにふと、晩御飯の材料に、卵がなくて、・・・何を作ろうとしてたんだろ。とにかく卵がないからつていうから。それを買ひに出かけたんだと思ふんだけど、そのまま帰らなかつた。そのまま仕事もやめて。

高橋 ええ？！それでそれきりなんですか。
大西 一ヶ月位してからさ、離婚届を送つたんだ。少し期待があつたんだ。あつちは、ほらこつちの住所も知らないから。住所を書いて送つたんだ。でも、なんの便りもなく、いつの間にか受理されてた。

高橋 それきり、そのままですか。

大西 うん。そんな。感じ。

高橋 後悔してますか。

大西 (少し考えて) ううん。・・・あの放物線の一番高いところの時みたいな、満ちたエネルギーは二度と僕の体に宿らないし、家族もない。でも、後悔はしてない。

高橋 どうしてですか。

大西 だつて、結果的に、こうして、梓ちゃんと、会えたし。

高橋 どうして、私とつきあいたいんですか。

大西 好きだから。

高橋 馬鹿ですか。女子高生ですよ。

大西 ・・・でも、僕は、今、そう思う。から。たまらなく、それを、望んでる。だから。

高橋 ちゃんと付き合うつて。なんですか。

大西 え。

高橋 定義。

大西 定義？・・・えつと、ほら、週末に会つて一緒に遊びに行くとか。

高橋 今もじゃないですか。

大西 ただ会うんじゃないなくて、週末会うのに、それが普通で。約束とか必要なくて。会わない週末が普通でないって感覚を、お互い持ってる。さりげない、無理のないところで、お互いを尊重して大切に思ってるのか。そんな関係。みたいな。

高橋 素敵ですね。それって。

大西 うん。

高橋 ……いいですよ。

大西 いいの？ほんとに。

高橋 もちろん。

大西 あの、えっと、あ。ありがとう。ほんとにありがとう。

高橋 私でよければ。

大西 もちろん。梓ちゃんじゃなきゃ駄目なんだよ。

高橋 ありがとうございます。

大西 え。いや。こちらこそ。ほんとううれしい。よろしく。これからもよろしく。

高橋 幾らですか。

大西 え。

高橋 援助。

大西 ……援助。

高橋 はい。

大西 ああ。えっと。そうじゃくて。ちゃんとした、付き合いをしたいなって。

高橋 ちゃんとしましょう。そこは。

大西 そだね。

高橋 おかしいですか。

大西 おかしくはないよ。現在の、僕と、梓ちゃんの関係においては。でも、さつき僕が言ったのは、それをそうでなくすることができないかなってことで。

高橋 お金がないんですか。

大西 ううん。ある！いやあるってほどあるわけじゃないけど、そのためのお金はある。

高橋 だったら。

大西 いや。あの。

高橋 お金はあるけど、出せないってことですか。

大西 いや、出せる出せるよ。

高橋 なんですか、じゃ。

大西 いや。うん。そうだね。・よし出そう！幾らかな。それって。

高橋 それこそ気持ちですよ。

大西 でもその気持ちってのが難しいよね。さつきのチョコとはちよこつと違うもんね。

高橋 違いますね。

大西 ……。

高橋 困りますよね。気持ちっていわれても。…意地悪なことをいってごめんなさい。

大西 いや。

高橋 ちゃんときあいますよ。私もそうしたいって思っていましたから。

大西 え？

高橋 実は、彼氏がいるんです。私。同じ学校の同級生で。

大西 ……そうかあ。

高橋 別れますね。

大西 え。どうして。

高橋 ちゃんと付き合うならそれが普通ですよ。そういうことを言っているんですよ。

大西 あ、うん。

高橋 (真剣に) だから、ちゃんとお金はください。

大西 ……え。

高橋 だって、それってファンタジーですよ。私はまだ、バツいちでもなければ、就職もしたことがない女子高生で、変な臭いもしないし、腰も痛くないし意味もなく冷えない。自分が下り坂だなんてこれっぽっちも思っていないです。色々毎日不安は不安だけど、まだこの先に何かの可能性を夢見てもいい年です。それにこの先十年くらいは、どんどん綺麗になっていくんですよ。27歳の女の人って、凄くきれいじゃないですか。私十年後でもあんなに綺麗でいられるんです。これから先十年、私の価値は上がり続けるんです。だからやっぱりPayに値するんだと思うんです。

大西 Pay?

高橋 ほら、ケーブルテレビとかでもあるじゃないですか。追加でお金を払うチャンネルが。特別面白いんですその番組は。だから、わざわざ別にお金を払って観るんですよ。

大西 うん。

高橋 そういう存在にしてください。すごく喜ぶますから。私。

大西 うん?

高橋 だからもし私が、大西さんのこと男の人としても好きだとして、お互い求め合って付き合うとしてもですよ。それでも、必要だと思っんです。支払いは。どうですか。

大西 うん。そうだ、その通りだ!

高橋 それに、援助がないと、私バイトします。お金ないですから。会う時間がないです。

大西 それは困る。

高橋 コンビニとかマックとかで、時給850円で土曜日と日曜日、丸一日台無しにして働くんです。だって、お金必要ですもん。友達と遊びに行ったりして互角に楽しみたい。互角にラインしたり互角にスタバ行ったり互角にカラオケしたりしたい。互角にかわいい服も着ないといけない。そんな中でも、宿題とか部活とかこなさないといけない。いい大学にも入らないといけない。それなのに時給850円じゃ。こんなに少ない貴重な時間売するのに割りに合わない。女子高生の一時間はそんなに安いですか。

大西 安くない!

高橋 だから、おかしなこといつてるようですが、まっとうなんです。私。

大西 ちっともおかしくない。出す。出させて。梓ちゃんの現在と未来のために。

高橋 ありがとうございます。そりやある程度ないと厳しいですけどほんと気持ちいいんですお金は。だって、私は大西さんと、ちゃんと付き合っんですから。仕事でなく。人と人として、男の人と女の人として。だから、お金はあくまで気持ちなんです。

大西 気持ちだよ。

高橋 はい。

大西 よし。気持ちって。単刀直入にズバツと、このくらいかな。(手で5万を示す)

高橋 え？

大西 ……月。

高橋 あ、月ですか。

大西 いやまちがえた、…週！

高橋 週ですか！いいんですか。

大西 ……いいよ！

高橋 じゃ、デートのとき、これから少し出しますよ。

大西 え、いいってそんなの。

高橋 でも、大西さんにお金がないからって会えなかったら、やっぱり寂しいですから。カラオケとかマックとかならですけど、いいですか。そういうところでも。

大西 梓ちゃん。ありがとう。大丈夫。がんばるよ。俺。

高橋 お母さんにだけ、言いますね。大西さんのこと。

大西 ……え！

高橋 困る？

大西 困らないけど。お母さん。大丈夫かな。

高橋 だって、普通の彼氏ですよ。

大西 まあうん。そうだけど。

高橋 でもお兄ちゃんがなあ。

大西 反対する？

高橋 わからないですけど。ちょっと、グレてて。ドラッグとかもやってて。

大西 えちよつとというか。けっこうだね。

高橋 でも、安心して欲しいですから。しっかり話をして理解してもらいます。

大西 あれあの、全部話すの。

高橋 普通に、彼氏として、ですよ。だって、普通に彼氏ですよ。

大西 うん。

高橋 (よく考えて)もしその倍出せるなら結婚します。

大西 え。なに。結婚？

高橋 その可能性がないわけじゃないじゃないですか。だから、もしもの話として。

大西 あうん。

高橋 今の大西さんには無理だったことも知ってますけど、できるなら、そうしたいな。

大西 ええ？

高橋 うち、両親すごく仲悪いから、紹介するときにはちょっとややこしいですけど。

大西 あそう。

高橋 さつさと別れたらいいのに。大西さんみたいに。

大西 あの、梓ちゃん。どこまで本気なのか。

高橋 冗談だと思ってるんですか。

大西 正直、冗談とか、なんかそんなのかもしれないって……思う。

高橋 本気です。

大西 そう。

高橋 それで高校やめて部活もやめて、友達づきあいもやめて、親の変な期待に応えるのもやめて。そういうのも、素敵だなあって。だから、思い切って一生買ってくれるんだつたら、よろこんで売りますよ。私。

大西 梓ちゃん、売りますよって。それはいくらなんでも。むちゃくちゃだよ。

高橋 もともとがむちゃくちゃじゃないですか。ちゃんと付き合うとかいいながら、払ってって言ったら、お金払うんでしょ。さっき払うって言いましたよね。

大西 え…あ。うん、言った。

高橋 でもお金ないですよねそんなに。

大西 今のところ。ない。

高橋 だからいいです。私を本当に好きなんだつたら働いてそのうち買ってください。

大西 あのさ。真面目に。

高橋 だから本気ですっていつてるじゃないですか！しつこいな！

大西 わかった。ごめん。

高橋 …ごめんなさい。

大西 いや、いいよ。

高橋、チョコレートの瓶を見ている。

高橋 …ほんとは、iPadがほしかったです。

大西 うん、わかってる。

高橋 でも、これも、ほんと、うれしいんですよ。

大西 ありがとう。

高橋 味見しました？

大西 チョコ、ぽかったよ。

高橋 材料はなんですか。

大西 チョコレートと、ワインと、あと、ブランデーとか。けっこういいやつなんだよ。

高橋 それに牛乳と、えっとセンビキヤの100%のグレープジュース。

大西 大丈夫そうですね。ひとつひとつの素材は。飲んでも。

高橋 いいよ。飾りだから。

高橋 飾るんですかこれ！

大西 あいや、飲めないから結果的にそうするしかないかなって。

高橋 飲みますよ。せっかく作ってくれたんですから。

大西 え、今。あ。

大西の制止も間に合わず、高橋、飲み始める。とても苦しそう。

大西 いいってちよつと。

高橋 …ちよつとそのままです。

大西 どう。

高橋 ものすごくまずいです。

大西 ごめん。
高橋 これ作って。途中でおかしいって思わなかったんですか。
大西 思ったんだけど。うまく働かなくて。頭が。
高橋 (思わず笑いだす) 凄いですね。こんなの、普通渡そうって思わないですよね。
大西 馬鹿だよな。
高橋 ほんと。ありがとうございます。うれしいです。
大西 うそ。
高橋 ほんとです。こんなにまずいんですよこれ！

高橋は猛烈に感動している。大西は、わけがわからない。

高橋 なんだか、それがうれしいんです。
大西 ?ありがとうございます。
高橋 ごめんなさい。
大西 なに。
高橋 お兄ちゃん、ドラッグとか、やってないです。
大西 え!?!?!あ、そう。
高橋 嘘ついてごめんなさい。
大西 あのいいよ別に。いいよつても変だけど。
高橋 あと。両親も仲、いいです。気持ち悪いくらい。うち。
大西 そうなんだ。
高橋 とても温かい家族なんです。心から大切にしたいって思う。
大西 ……うん。
高橋 大西さん、ちゃんと奥さんに連絡してくださいね。そのままってのはよくないです。
大西 ……え。
高橋 じゃ、どうぞこれから、よろしくお願いします。(手を差し出す)
大西 (手を握る) こちらこそ。
高橋 ……日割りでもいいですよ。
大西 え。
高橋 今月分は。もう一週間過ぎますから。
大西 あ、ありがとうございます。
高橋 今日のは別ですけど。

大西、カバンから財布を捜す。

高橋 途中でやめるときは、月末の十日ほど前までには言ってくださいね。
大西 (財布を探す手を止め、ちゃんと) そんなふうにはならない。
高橋 そうですか。

大西、「今日の分」を高橋に渡そうとする。

高橋、受け取ろうと手を差し出す。大西は、渡すことに若干迷う。高橋は大西が迷っていることに気がつく。大西、決心して渡す。高橋、受け取る。

高橋 ありがとうございます。

高橋、お金を丁寧に仕舞う。そして、ちゃんと大西に向かい合い…。

高橋 私、高校生じゃないです。

大西 …え。

高橋 ええっ。

大西 え、え。

高橋 気が付いてなかったんですか。

大西 え、ほんとに。

高橋 嘘でしょ。いいですよそんな。

大西 いや。ぜんぜんわかんなかった。

高橋 ありがとうございます。

大西 あ、そう。

高橋 もうちよつとだけ、上です。

大西 …へえ。

高橋 割り引きますか。

大西 いや。

高橋 つまんないことですが、聞いていいですか。

大西 なに。

高橋 卵、買ったんですか。そのとき。

大西 …買ったよ。

高橋 どうしたんですか、それ。

大西 家の前においといた。

高橋 …律儀ですね。

大西 卵ないと、困るかなって。晩御飯。

高橋 困りますね。

大西 うん。

高橋 そうなんですか。…帰ります。

大西 え、あ送ってくよ。

高橋 いいですって。

大西 待って。

高橋 なんですか。

大西 いま、かけるから。電話。ここで。報告する。

高橋 どっちでもいいです。

大西 かける。

大西、携帯を取り出す。

高橋が見る中、精一杯の覚悟で電話をかける。
ところが、なかなか、出ない。が、ようやく出た。

大西・・・あつ、あの。俺だけど・・・ごめあつ！。

電話はあっさりと切られたようだ。そのまま溶暗。

おしまい

上演にあたっての注意事項

(1) 上演にあたっては著作者の承諾を得てください。

(著作者) 南出謙吾

Mail minamidek@gmail.com

Twitter @minamidek

(2) 上演料の目安は、チケット売上の3%としております。

詳細はご相談ください。

例：3000円×300人＝90万×3%＝2万7千円

ただし、短編オムニバス公演等の場合は、上演作品の割合とします。

例：右事例で、3本だての1本としての場合は1/3で1%、9千円。